

賛否両論

VOL.
2

●不良航法の発生件数

年	件数	前年比 (4月21日現在)
2025	824	
2024	2838	77
2023	2761	742
2022	2019	124
2021	1895	-76
2020	1971	-177
2019	2148	161
2018	1987	195
2017	1792	9
2016	1783	-

今年3月、大リーグのオープン戦で「ロボット審判」が試験的に運用された。ストライク、ボールの判定を、球場に設置した複数のカメラが行うシステムだが、全てのボールに対してではなく、球審の判定に異議がある場合のみ申告できるもの。いずれにしてもこれまでは、絶対的立場だった審判の目視に機械判定を導入したことはセンセーショナルだった。

プロ野球でも「リクエスト」、テニスでも「チャレンジ」といった誤審防止のためのビデオ判定が導入されている。回数の制限はあるにしても、やはり人間の目では限界があること、より正確により公平にジャッジするためのシステムとして活用されている。

人間の目視の限界

お題

ビデオ判定・リプレイ検証はアリorナシ?

不良航法と妨害失格

ボートにおけるジャッジで、フアンの間でも(選手間でも)話題に上がるのが不良航法と妨害失格だ。「ぶつかった相手がコケてるのに何で妨害にならないんだよ」とか「なんであれは不良航法なの?」とか「ボートは当たってないのになぜ取られる」などなど。不明瞭な部分に不満・不服がある人は多い。ピット内で吠える選手も見かけたことがある。審判員によつて、サジ加減が違ふと思つてる人も多い。特に妨害失格はその時点で賞典除外。ファンからすれば、舟券の当たりハズレにも影響を及ぼす。納得のいかない人は多い。レース場へ説明を求める、クレーム電話が鳴りやまないこともあると聞いたことがある。

ちなみにみなさんは年間で何件の不良航法が発生しているか、ご存じだろうか。上表にまとめたが2016年は1783件だった。が、昨年(24年)はなんと2838件。実に1000件以上も増加している。

そして起きた徳山での誤審

4月18日、前代未聞といえる事象が発生した。転覆発生に際し、全く無関係の選手が妨害失格とな

つたのだ。リプレイで見れば明らかに、誤審と分かる事案。その後さすがに誤審が発表され、対応が協議されることになったが、もしリプレイ検証があれば、こんな明らかなミスは起きなかったはずだ。逆にプロ野球のように選手から「リクエスト」があれば、判定はその場で覆っていたらどう。

ボートレースは公営競技の中でも着順確定発表の早さは群を抜く。それはファンにとつてありがたいことだ。だが「ボートレースはプロスポーツ」と謳う以上、正確かつ公平なジャッジがなければファンを失いかねない。多くのプロスポーツが導入するビデオ判定。みなさんはどう思う?

